

学校評価報告書

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きては たらく知	①国語の重点研テーマを「言語活動を通して、主体的に考え、自分の言葉で表現し、学び合う力を育む」と設定し、言語活動の充実を図ると共に表現力・コミュニケーション力を向上させる。 ②語彙力を身に付けさせるとともに、単元計画を工夫し、聞く力を向上させる。	教材研究を含め、共同研究を進めたことで、実態を考えた学習活動や言語活動を考えていくことができた。言語活動を充実させることで、身に付けたい力が明確になった。一方で、個人差もあり、学校全体としての底上げをしていくことの必要性も感じられる。	B
確かな 学力	①一部教科担任制や少人数指導、取り出し指導を導入し学力向上を図る。 ②朝学習を授業時間としてカリキュラムに位置づけ、基礎的・基本的な知識・技能の習熟を図る。 ③体験的な学習活動や必要感のある課題を通して、子どもたちに実感の伴った授業を展開する。	教科担任制や少人数指導を通して、子どもを学年で見取ることができたが、取り出し指導については行うことがほとんどできず課題が残る。朝学習の時間を使って基礎的・基本的な知識技能の習熟を図ることができている。体験的活動については、厳選して行い、学習の定着に生かしていった。	B
豊かな 心	①『横浜プログラム』、校内縦割り班活動を意図的計画的に実施し、児童理解・学級集団理解を進め子どもの自尊感情・自己肯定感を育てる。②「ひと・もの・こと」とかかわる様々な教育活動を充実させ、自然体験や生活体験を豊かにし、規範意識や人権を尊重する心、社会参画意識を育てる。	ペア学年を中心とした縦割り活動を実施し、子どもの自尊感情・自己肯定感を育てる活動を継続できた。人権週間の取り組みを日常化し、生活の中で人とのかかわりを大切にすることを意識をもたせるように努めた。一方、進んで挨拶することが少ないなど課題も感じられる。	B
健やか な体	①週1回、「ロング昼休み」を設定し、体力づくりを進める。また、月1回の全校ロングでは、長縄を中心に体力・集団力を高める。さらに体育館の活用を進める。②生活指導、保健指導、給食指導を中心に、自分の健康の保持・増進に必要な知識・技能を獲得させていくとともに、実践していく力を育てる。	①予定通りの体力づくりを進めることができなかった。密にならないような配慮をすることはできた。体育館の利用などは特活とも兼ね合わせ、有効に活用していきたい。②感染予防については、給食時や手洗いうがいの指導を全体で意識することができた。	B
未来を開 く志	①地域の材(梨園、田、畑、公園、商店街)に積極的に関わり、地域とともに学校教育を進める。②地域の人たち(自治会、社会福祉協議会、福祉施設等)と積極的に関わり地域と共に学校教育を進める。③地域の人たちと関わることで、その人たちの人間性に触れ、他者のよさを自分に生かそうとする。	稲作活動への参加や、梨園見学など、できる範囲で地域の材に関わっていった。山下文化祭に作品を出品したり見学をしたりすることを通して、地域の材や人の良さに触れることができた。150周年に向け、引き続き地域の良さに触れ、自分自身に生かしていけるようにしていきたい。	B
児童・生 徒指導	①「山下小学校スタンダード」を活用し、全職員が共通の指導内容で児童一人ひとりとかわっていく。 ②職員会議・研修を通して、児童にかかわる対応について共通理解の場を設定し、組織的に対応する。 ③ルール・礼儀作法・挨拶を児童に意識づけられるよう、職員全体で指導していく。	児童についての情報共有や対応については、共通理解を図ることができていた。一方で未然防止のための取り組みや、児童の規範意識を高めるための対応など、学級経営にかかわる部分について、学校全体に発信していくような役割を担っていけるような工夫が必要だと感じる。	B
特別支 援教育	①配慮を必要とする児童への支援体制について特別支援校内委員会や児童指導委員会の中で検討・共通理解する場を設け、職員の理解を深める。 ②個別の支援計画・指導計画を活用し、学級活動、教科指導に生かしていく。	配慮を要する児童への理解を深めるとともに、保護者との連携が必要となってくる。特別支援教育相談センターなど、関係機関と連携するためのアセスメントや、校内での情報共有の場をより一層充実させていきたい。	B
地域連 携	①学校だよりや学校ホームページ等で積極的に学校から、情報を発信する。②PTA行事や地域行事に職員が計画的に参加することで、保護者や地域の人と協働して子どもたちを育む。③教育推進懇話会では、学校が抱える課題を情報共有し、地域と共に学校づくりを行っていく。	昨年よりホームページの更新を増やし、行事などの様子を発信していった。今年度は保護者や地域の方が来校して学校や子どもの様子を知る機会が少なく、もっと様子が知りたいという要望があった。今後は行事だけではなく日常の様子も発信していけるようにしていきたい。	B
いじめへ の対応	①いじめ防止対策委員会の機能を高め、いじめの未然防止に努める。 ②職員・保護者・地域との連携を密に行い、いじめの未然防止、早期発見につなげる。 ③関係機関と連携し、組織的な対応に取り組む。	いじめへの対応、保護者との連携など、職員間で情報共有を図り、組織的に対応することに一定の成果があった。規範意識や他者を思いやる心を育てていくことでいじめの未然防止につなげていきたい。	B
人材育 成・ 組織運 営 (働き方 改革)	①メンターチームを五年次以下の教職員を中心に組織し、月1回自主的自立的に研修・研究を行う。 ②チームで対応を行うことによる組織力の強化や教務会・諸会議における学校運営にかかわる情報交換等で、多様化・複雑化する学校現場に対応していく。③グループウェアを活用して情報の共有化を図ったり、eラーニング等を活用して効率的に研修を進めたりする。	メンターでは、計画的に研修・研究を行うことができた。いろいろな先生方にもご指導頂きながら学習を深めた。コロナ禍で例年とは異なる対応が多かったが、その都度チームで考えを練り、対応していくことができた。グループウェアを活用し、会議のペーパーレス化を図ることができた。また、情報を全職員で共有することができた。	B
ブロック内 評価後の 気付き	学校全体を見直し、教育環境やカリキュラムなどを職員全員で確認しながら共有していくことができた。カリキュラムが変わり、本来なら学年やブロックでじっくり教材研究する必要があったが、今年度限られた時間でカリキュラムを行っていったため、十分に時間を割くことができなかった。今後は、ブロック研の充実も含めチームでより授業力を高められるようにしていく。		

学校関係者 評価	<p>今年度は年明けより非常事態宣言が出され、学校関係者との懇談会ができず、次年度、感染の状況を見ながら、早期に振り返りと次年度の学校経営について話し合うための懇談会を開催する。</p>
---------------------	---

中期取組 目標 振り返り	<p>長期休業や感染予防等、様々な対応に迫られたが、児童の安全と健康を確保することを最重要として学校運営を行った。休業期間を活用して、児童の学習・生活環境の改善を図るとともに、職場環境の改善にも取り組むことができた。学力向上のためには、主体的に学び、自己の成長に喜びを感じることができるように、学びへの姿勢を高めていかなければならない。児童の規範意識やコミュニケーション能力の向上には、低学年からしっかり積み重ねていき、発達段階に応じたストレスマネジメントやアンガーマネジメントのスキルを高めていく必要がある。</p>
-----------------------------	---